

県連 50 周年) 房総 50 山) 嵯峨山・津辺野山山行報告

(山 域) 房州保田 「嵯峨山」・房州富山「津辺野山」

(コース) 「嵯峨山」 鋸南保田 IC=小保田=下貫沢(駐車場)登山口～嵯峨山～釜の台～下貫沢(駐車場)
「津辺野山」 鋸南富山 IC=二部下山口 (1 台を路肩に駐車) =塚原(長狭街道)秋葉神社付近
登山口 (路肩に 1 台駐車) ～見晴台 (5 分寄り道) ～秋葉山～津辺野山～二部下山口

(日 時) 平成 28 年 1 月 16 日(土)

(天 候) 晴れ

(参加者) CL 齊藤(一)・菅井・八角・田中(記録)

(山行タイム) 市原(田中宅)8:00=市原 IC=鋸南保田 IC=道の駅(保田小)8:40 9:00=小保田=下貫沢
(駐車場)登山口 9:15 9:25～嵯峨山 10:10～釜の台～下貫沢(駐車場)11:40=道の駅
(保田小)昼食=鋸南保田 IC=鋸南富山 IC=二部下山口=塚原(長狭街道)秋葉神社付近
登山口 13:30～見晴台 13:51 (5 分ほど横道へ寄り道) ～津辺野山 14:16～下山口 14:46
=登山口に車回収=鋸南富山 IC=鋸南金谷 IC=海辺の湯=解散(齋藤一さんは宿泊場所へ)
(菅井・八角・田中は菅井車で帰途)

(山行報告) 【嵯峨山】

齋藤(一)さんの車で我が家に 8:00 にお迎えを頂き、市原 IC より鋸南保田 IC に 40 分弱で付きすぐ前に新たに開設された「道の駅：保田小」で菅井さん(菅井車)と八角さんと 9:00 に、合流して 2 台で 10 分ほどのところに有る小保田から左に入った下貫沢の駐車場に着く。私は数年前にここを訪れていて久しぶりに過って混雑で車が出せなくなったことを思い出した。先客の若い女性と挨拶の後に 4 人で終わりかかって居る「水仙と咲き出した梅」を眺め沢筋から尾根道を辿り、山頂にたどり着き、駐車場の女性と挨拶した所、茂原道標山の会メンバーをご存じの方と判り、尚も話が弾んだ。



【下貫沢駐車場】



【嵯峨山山頂】

山頂からは釜の台地区に下山路を通り途中の耕作放棄地の田んぼの「水仙」を眺めたが、数年前よりのカヤトが生い茂りだんだんと過つての見どころも今一の所となって居た、地区の人も人口減少でここまで手が入らないのであろうか？また、道の周りに植えられた夏みかんも寂しそうにぶら下がって居た。(落ちたばかりのミカンをかじると何とか食べられたが、野生の味がした。) 釜の台からは廃墟が目立ち荒れた道路を辿り、途中の山腹に付けられた、階段状の登山道から元の尾根道の峠に登り (1 周した) 下貫沢駐車場に下山して嵯

峨山登山を終わった。



【釜の台の水仙】



【釜の台のミカン】

皆で相談して昼食は出来たばかりの「道の駅：保田小」で頂く事で一致して道の駅へ戻り、レストランで山では中々無い「レストラン」でランチとしゃれ込んだ。

【津辺野山】

食後に相談して1台（齋藤車）を下山口の路肩に置き全員で菅井車にて登山口の塚原登山口に向かい何とか場所を見つけ路肩に駐車し、登山口の木柱の道標より登り出す、しばらく行くと右に細いあぜ道があり「秋葉神社」と書いてある。（これでは車から探しても見えないはずだと皆で肯く。）竹の朽ちた荒れた登山道（道ははっきりしている）を時たま見える赤布に導かれて行くと「展望台」の矢印で二股に道は分かれていたが展望台を見たいと右の展望台に向かう2～3分で展望台（岩石を削った跡地）へ付きここからは富山の町と東京湾が一望でき良い所であった。



【津辺野山登山口】



【展望台よりの風景】

再び元の分岐に戻り左上の登山道に沿って登って行くと秋葉山と書かれたピークにたどり着いた。津辺野山の手前のピークが秋葉山の様だ、此処からは稜線歩きで緩やかになり、やがて、津辺野山に着いた。

静かな山頂でひと息の後に下山口目指して緩い下りのルートを話しながら下りること、30分余りで二部側の下山口にたどり着いた。

此処からは齋藤車で登山口に戻り、菅井車を回収して金谷の「浜辺の湯」につかり夕方の浦賀水道を眺めて本日の登山を終え、齋藤さんは明日の登山の為に鴨川の宿に一人向かった。（菅井車で残る3名は帰途に付いた。）



【津辺野山山頂】



【下山完了】

(日時) 1月17日(日曜日)

(天候) 曇り

(参加者) CL 齊藤(一)・山内・小倉・加藤 記録 齋藤

(山行タイム) 9:30 館山房総フラワーライン坂田駐車場出発～10:23 房の山山頂着～
11:30 坂足集落～川奈集落まで道歩き＝12:20 バスにてクルマ回送＝
伊戸だいぼ工房にて昼食＝13:40 登山口大聖院着～14:30 大塚山山頂～
15:30 登山口着

(山行報告) 【房の大山】

昨夜は大山青少年研修センターで一人にて朝食付き宿泊をし、快晴の朝を迎えたが予報は低気圧が南から上がってくると聞き不安になる。急ぎ、参加者を迎える為保田駅に到着。彼らは千葉6:58の列車でここへとやって来た。到着は8:24。早速走り出し、打ち合わせをしながら館山を経てフラワーラインの坂田集落へ。トイレ横の駐車スペースに到着した頃には厚い雲が空を覆い、冷たい風とともに海は白波が立ち始める様相で登山開始となった。



コンクリートの道を案内標識の通り歩くと民宿庄次郎に突き当たる。「あれ？」っと思うかもしれないが、この敷地には入らず塀沿いに左手へ歩く道が続く。篠竹が太く生い茂った処を抜け、道は山頂へと向かう。傾斜はキツくないし踏み跡は明瞭でこの山に入る人が多いのが想像できる。左手に館山湾を見ながら樹林帯を進むが、マテバシイが多く、太い幹をしている。この地は黒潮の風で成長が著しく速いようである。

生えてから長い年月が過ぎているのだろうか、巨木に成って誰も手を付けられない様だ。急登を過ぎれば伊豆半島、三浦半島、太平洋が見渡せたであろう山頂へ到着だ。生憎の曇天で足元の館山湾方面だけよく見えたのだが、これに背中を向けると大島の三原山裾野が見え始めた。子供の頃何度も館山には通ったがこんなに大きかったかと思うほど、太平洋にその姿を浮かべている。下山なのだがもうひとつの坂田へ戻る道は通行止めであるから岬の反対側 坂足へと向かう。この大山は本土防衛用にトーチカ・戦車道等の戦争遺跡が多く残されているのでその名残にも出会う山旅であった。登山道も幾重にも分かれているので日だまりのハイキングではとても良い場所であろう。坂足へ下山後 車道を洲崎方面に歩き、伊戸だibo工房での食事である。リーズナブルな金額で海の料理を堪能できるが人気店だけに売り切れも早いので入る時間には注意した方がよい。

【大塚山】

食事場所から30分、千倉の街手前 高塚不動大聖院の看板が入口だ。民家の中を抜け墓の前に駐車するか大聖院境内で許しを請い留めるしかない。ここから右に折れ、コンクリート階段の急坂を登り、歩きやすい平坦な道をマテバシイに囲まれながら歩く。



平磯への分岐を過ぎ鳥居のところから再び階段が始まるがこちらは高く足を上げる程ではない「ちょうど良いリズム」で上がれる。到着した高塚不動境内では翌週24日に行われる祭りの準備で地元有志達が作業していた。この裏の山頂を踏み、改めて彼らに話を聞けば、この山域に様々な登山道を巡らし、来週までに更なる2コースが作られるそうで、とても楽しみである。また、曇りではあるがここからの太平洋は素晴らしい眺めであったので今日歩いた房総突端の山二座へは天気の良い日に再訪したいものである。尚、この山周辺の登山MAPは大聖院で頂けるとのことです。ここより千倉を過ぎ410号線で帰路に着いた。

悪天にも関わらず参加された方、前日の晴天の下、水仙と梅を愛でて歩いた先輩諸氏には色々な山のこと、時の移り変わりを教えていただきました、お礼を申し上げます。